

# 江戸幕府がわかる3冊



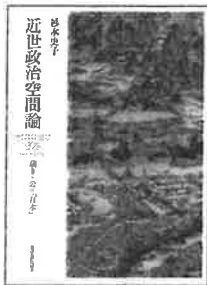
武蔵野大学国際総合  
研究所特任教授

## 山内昌之



江戸幕府を理解する上で  
歴史が展開される空間を新  
たな視点から問題にした二  
冊が注目される。

杉本史子『近世政治空間  
論―裁き・公・「日本」』  
(東京大学出版会)は、政治  
的に作り出された空間の江



東京大学出版会 7000円+税

戸城や裁判の場として評定  
所をとりあげる一方、太平  
洋を政治的意味が付与され  
た空間、幕末の新たな政治  
機構や非公式会議を近世日  
本の政治空間として考え直  
す。江戸時代の政治史を巨  
視的な観点から眺める見方  
を提示する。



吉川弘文館 10000円+税

福田千鶴『近世武家社会  
の奥向構造―江戸城・大  
名武家屋敷の女性と職制』  
(吉川弘文館)は、杉本氏が  
中核空間の中で触れなかつ  
た大奥や奥の奥向を、儀式  
や対客の場たる表向と違う  
空間としてとらえ、奥向を

だ。  
江戸城についてはすでに  
深井雅海氏の名著『図解江  
戸城をよむ』(原書房)も出  
ているが、著者はそれを中  
核空間、境界空間Ⅰ、境界  
空間Ⅱに分けて定義を試み  
た。

それぞれ、本丸の將軍権  
力を中核とする人工空間、  
北の丸と大手門前と大名小  
路などの内曲輪、日本橋本  
町など町方を含む外曲輪に  
あたる。

惣構えの城の中核空間と  
境界空間が有機的に組み合  
わされた結果、幕府の空間  
的基盤が形成されたという  
のだ。

## 2019.1.3・10 週刊文春

さらに表方と奥方に分けて  
考える。將軍や大名の日常  
生活の場として執務もする  
奥向の表方と、妻や側妻や  
家族との生活を営む場所と  
しての奥方に分けるのだ。

江戸城でいえば、この奥  
向は、かつて中奥とも呼ば  
れた奥と大奥の双方を指  
す。奥方は、大名家では  
裏、局、構、広敷と呼ばれ  
た。福田氏は、江戸城では  
老中の御用部屋も奥に属す  
る空間に位置したことを力  
説する。

もともと將軍が起居して  
日常事務を処理する場所だ  
った奥は、居間という生活  
空間として理解する限り大  
奥と一体化する存在であ  
り、整備された行政機構の  
頂点にある將軍の御座之間  
や老中の御用部屋の存在を  
意識するなら表向と不可分  
でもあった。まさに奥向は  
私的生活と公的生活の両義  
性を内包する空間だったの  
である。



校倉書房 古書のみ

徳川初期に政治的意味を  
海に付与したのは、いわゆ  
る鎖国である。この点では  
山本博文『鎖国と海禁の時  
代』(校倉書房)が基本文献  
である。

いわゆる鎖国令は、三代  
將軍家光が寛永一〇(一六  
三三)年から一六年にかけ  
て五度にわたって発布した  
ものだ。

その柱は、日本人の海外  
渡航禁止、貿易統制、キリ  
シタン禁令の三本柱である  
が、山本氏は日本史家が海  
禁や武威などの言葉を吟味  
せずに使うことに慎重であ  
り、歴史学や政策史の見地  
から「鎖国形成史」を描く  
重要性を説いた。

江戸時代史の理解には当  
時の政治や社会の内部から  
説明する点こそ重要だとい  
う指摘は、「グローバル・  
ヒストリー」に日本史を  
「包摂」できると信じる人  
びとも虚心に耳を傾けるべ  
きだろう。もとより、いま  
月刊『文藝春秋』に「將軍  
の世紀」を連載している私  
としても同じことだ。

やまうちまさゆき/1947年北  
海道生まれ。歴史学者。『民族と  
国家』『イスラームとアメリカ』  
『歴史という武器』など著書多数。

週刊文春

2019.1.3・10

新年特大号